

# 助 産 学 科

## 1 カリキュラム概念枠組み

### < 人 間 >

人間は生を受け、生きる力を獲得しながら成長する。その成長過程は、種の保存の営みであり、他者との相互作用によって発達していく。それは、ライフサイクルの中で営まれ、人との関係を築き自己の価値を見出していく。

さらに、人間はかけがえのない命と尊厳をもち、人権が保障される存在である。

### < 生 命 >

生命は、生物が生きて存在できる根源となる力である。

ヒトは、健康な母胎に生命が宿り、生まれ、成長し、老い、人生を終える。しかし、その生命は、次の世代へ永続的に受け継がれ続いていく。

生命はヒトとして尊重されるものである。

### < 生 活 >

生活とは、人間の一生の（誕生から死までの）プロセスである。

人は地域や所属の中で関係性を保ちながら自分の価値観を形成し、自分らしい生き方を選択する。生活は環境の変化や人との関係性の中で変化していく。

### < 倫 理 >

倫理とは、専門職の実践の道徳的判断形成の中心をなすものであり、倫理の中核は、他者（個人）の尊重である。専門職における倫理とは、対象の人間としての尊厳を尊重し基本的人権を擁護するとともに、責任をもって職務を遂行し、対象に係るすべての人々と協働することである。

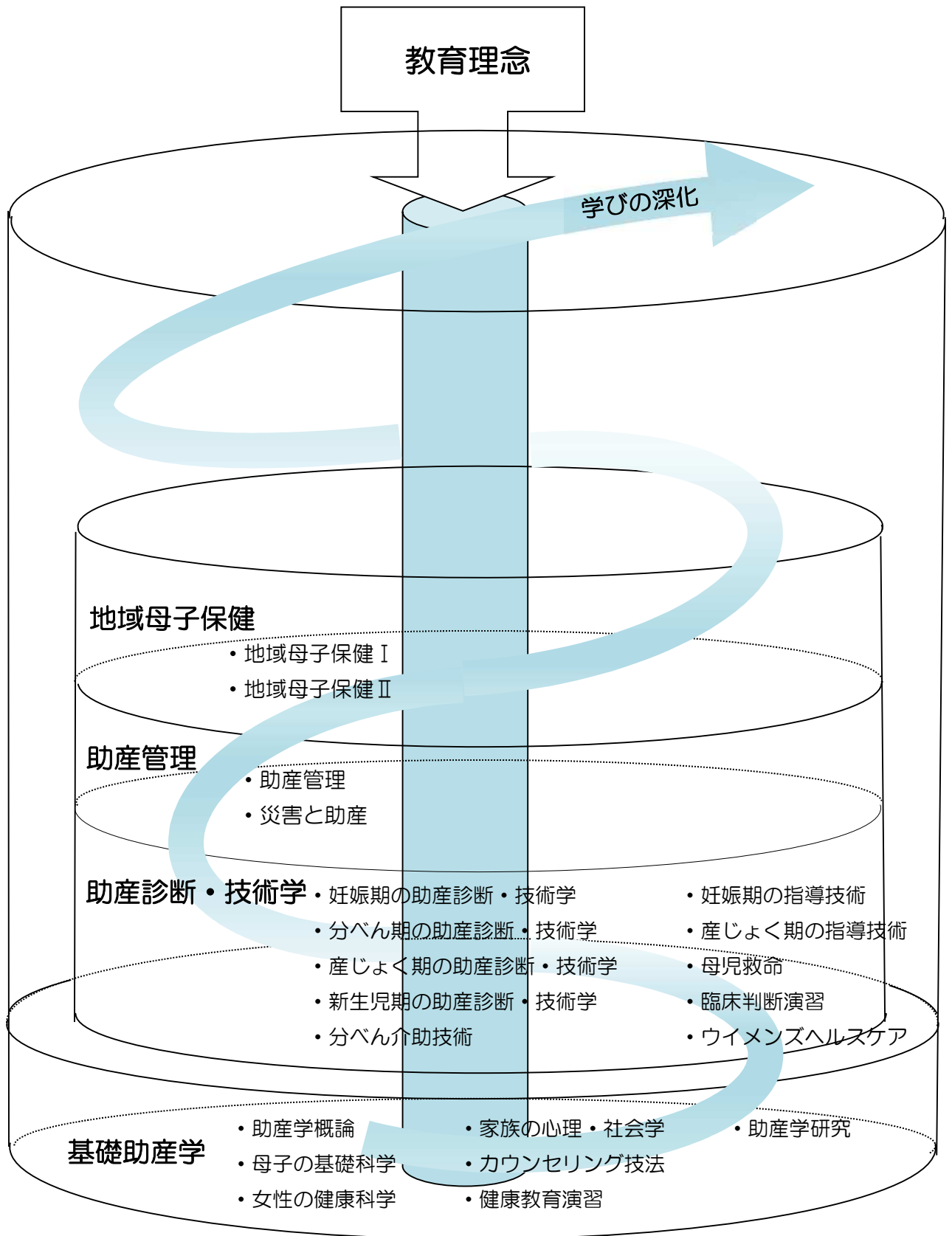
### < 看 護 >

生命の尊厳や基本的人権を尊重し、その人がよりよく生きていくことを健康の側面から支援することである。また看護は人が人に対して行う行為であり、自分以外の立場になって判断し、看護するものの看護観に基づいた実践である。

### < 助 産 >

助産は看護を基盤に、子どもの産み育てだけでなく、母子を中心とした家族や社会に対し、女性の生涯を通じて、性と生殖に関する健康を支援する専門職である。助産ケアは、命に対し真摯に向き合い根拠に基づいた助産診断を行い、対象の価値観や願いを尊重し、セルフケア能力を高めるようサポートするものである。

## 2 カリキュラムの構造図 (助産学科)



### 3 助産学科 学科進捗表 (単位・時間)

静岡市立清水看護専門学校

授 業 科 目		単 位 数	時 間 数	前 期		後 期	
				単 位	時 間	単 位	時 間
基礎助産学	助産学概論	1	30	1	30		
	母子の基礎科学	1	30	1	30		
	女性の健康科学	1	15	1	15		
	家族の心理・社会学	1	15	1	15		
	カウンセリング技法	1	15	1	15		
	健康教育演習	1	15			1	15
	助産学研究	1	15			1	15
	小 計	<b>7</b>	<b>135</b>	<b>5</b>	<b>105</b>	<b>2</b>	<b>30</b>
助産診断・技術学	妊娠期の助産診断・技術学	1	30	1	30		
	分べん期の助産診断・技術学	1	30	1	30		
	産じょく期の助産診断・技術学	1	30	1	30		
	新生児期の助産診断・技術学	1	30	1	30		
	分べん介助技術	1	30	1	30		
	妊娠期の指導技術	1	30	1	30		
	産じょく期の指導技術	1	30	1	30		
	母児救命	1	15			1	15
	臨床判断演習	1	15			1	15
	ウイメンズヘルスケア	1	30	1	30		
小 計	<b>10</b>	<b>270</b>	<b>8</b>	<b>240</b>	<b>2</b>	<b>30</b>	
地域母子保健	地域母子保健Ⅰ	1	30	1	30		
	地域母子保健Ⅱ	1	15			1	15
	小 計	<b>2</b>	<b>45</b>	<b>1</b>	<b>30</b>	<b>1</b>	<b>15</b>
助産管理	助産管理	1	15	1	15		
	災害と助産	1	30			1	30
	小 計	<b>2</b>	<b>45</b>	<b>1</b>	<b>15</b>	<b>1</b>	<b>30</b>
臨地実習	助産診断・技術学実習Ⅰ	4	180	4	180		
	助産診断・技術学実習Ⅱ	5	225			5	225
	地域母子保健実習	2	90	2	90		
	小 計	<b>11</b>	<b>495</b>	<b>6</b>	<b>270</b>	<b>5</b>	<b>225</b>
総 合 計		<b>32</b>	<b>990</b>	<b>21</b>	<b>660</b>	<b>11</b>	<b>330</b>

授 業 科 目		単 位 数	時 間 数	前 期		後 期	
				単 位	時 間	単 位	時 間
課外活動 (行事)	入学式				2		
	ガイダンス				8		
	親睦会 (看護学科との交流)						2
	健康診断				2		2
	防災訓練				2		
	看学祭						16
	国家試験対策				8		30
	研究発表会						4
	卒業式						2
	合 計				22		56

令和5年度生 (5期生)	単 位					時 間				
	基礎	診断	地域	管理	実習	基礎	診断	地域	管理	実習
	7	10	2	2	11	135	270	45	45	495
合 計	32					990				

## 4 助産学科 授業科目と内容

授業科目の※は、受胎調節実地指導員認定講習の講義が含まれることを示す。

講義内容の詳細は、「静岡市立清水看護専門学校受胎調節実地指導員の認定講習内容」を参照のこと。

### ◆ 基礎助産学

助産の基礎となる概念と多様な対象を理解・尊重した上で、助産に必要な専門的知識と技術を修得し、生殖や周産期医療において対象に合わせた助産師の関りについて学ぶ。

授業科目	単位数	時間数	開講時期	ねらい	学習内容
助産学概論 ※	1	30	前期	法や母子保健の動向に基づく助産の概念・定義や倫理・責務を理解する。また助産師としての専門性や役割について自ら考える力を養い、チーム医療の中の調整・連携について学ぶ。	助産の概念、助産師の定義と業務、助産師を支える理論と研究、職業倫理、助産師と法、助産師と政策への参画、母子保健の動向と課題、家族計画の意義と目的、助産師と生命倫理
母子の基礎科学 ※	1	30	前期	助産ケアを行うための根拠となる身体のしくみやホルモンを理解し、基礎的な妊娠・分娩・産褥の知識、新生児の生理と病態および母子の歯科保健について学ぶ。	人間の身体のしくみ・ホルモン、妊娠の成立の機序、周産期の遺伝医療と遺伝カウンセリング、妊娠各期の母体の変化・胎児の成長発達、妊娠・分娩産褥期の正常・異常、新生児の生理、発育・発達、フィジカルアセスメント、新生児・乳幼児、早産児の疾患と病態、歯科保健（妊娠期、産後、乳児）
女性の健康科学 ※	1	15	前期	女性のライフサイクル各期における健康課題について、東洋医学を含めた、助産師に必要な基本的な医学的知識・薬学を学ぶ。不妊や現在行われている生殖補助医療とその課題について学ぶ。	生殖補助医療、不妊症、出生前診断、母子と免疫、母子と感染、婦人科感染症、女性のライフサイクル各期における疾患、女性生殖器と乳房の疾患、東洋医学、妊娠・分娩・産褥期に用いる薬剤
家族の心理・社会学	1	15	前期	ライフサイクル各期における心理・社会的課題や母子関係・父子関係形成の発達課題を理解し、助産師としての関わり方の基礎を学ぶ。	母子・父子関係の形成と課題、家族・地域のネットワークと子どもの発達、家族と社会、子育て支援、女性のライフサイクルにおける社会的背景と身体的・心理的・社会的課題
カウンセリング技法	1	15	後期	カウンセリングの基本的理論を学び、ロールプレイ、小グループでのディスカッションをとおして、自己理解を深め、対象者との関わり方を学ぶ。	カウンセリングの基本理論、自己理解・他者理解、カウンセリングの基本的な技法、母子や家族と信頼関係を築くための基本的姿勢、アサーション
健康教育演習 ※	1	15	後期	相談・教育の対象理解を学び、対象の発達課題に合わせた母性・父性を育む支援として、健康教育の指導方法について学ぶ。	相談・教育の対象理解、相談・教育の理論的基盤、両親学級の企画書作成と実施、青年期にある対象への性教育の必要性や内容の理解・指導案作成

助産学研究	1	15	後期	論理学の基礎的知識を理解し、論理的な文章の表現方法を学ぶ。分娩介助実習で関わった事例について、研究的視点を持ち自己のケアを振り返ることで、助産ケアの視野を広げ、自己の課題を明確にする。	論理的思考、論理的なレポートの書き方、研究の意義・倫理的配慮、実習で関わった事例による事例と発表、リフレクション
-------	---	----	----	--	--

◆ 助産診断・技術学

妊娠・分娩・産褥・新生児各期の健康状態に関するアセスメント力を身につける。助産師として正常分娩を安全に行うことができるよう助産技術やケアの方法を学び実践する。また、周産期において予期せぬ場面で状況に合わせた対応ができるよう母児救命や新生児蘇生について学ぶ。

授業科目	単位数	時間数	開講時期	ねらい	学習内容
妊娠期の助産診断・技術学	1	30	前期	妊娠中の母体の変化や胎児の成長発達をアセスメントするための観察の視点・技術・医療機器を用いた検査を基に助産診断するための思考を習得する。 助産診断を基に、妊娠経過に応じた健康維持のための支援、ハイリスク妊娠・異常妊娠の支援について学ぶ。	妊娠期の心理・社会的変化、妊娠期のフィジカルアセスメント、妊娠期の正常・異常のアセスメントと助産診断、妊婦の運動、妊婦への支援、健康生活の診断と保健指導、日常生活適応へのケア（運動・睡眠・休息等）、ハイリスク・異常妊婦のアセスメントと支援、ペリネイタルロス（流産）を経験した妊婦と家族へのグリーフケア、妊娠期の助産診断に必要な検査法、妊娠とエコー診断の実際
分娩期の助産診断・技術学	1	30	前期	分娩進行をアセスメントするための観察の視点・技術を用いて、助産診断するための思考を習得する。 事例を用いて、産婦に対する助産診断を基にケア計画を立案する。	分娩期のフィジカルアセスメント、分娩期の心理・社会的変化、分娩期の助産診断の特徴と診断類型、分娩期の正常のアセスメントと助産診断、胎児モニタリングの診断、産婦への支援、分娩期の異常・偶発疾患、ペーパーペイシェントによる助産過程の展開の演習
産じょく期の助産診断・技術学 ※	1	30	前期	産褥期をアセスメントするための観察の視点・技術を用いて、助産診断するための思考を習得する。 産後の受胎調節指導の方法を習得する。 事例を用いて、褥婦に対する助産診断を基にケア計画を立案する。	産褥期のフィジカルアセスメント、産褥期の心理・社会的変化、産褥期の助産診断の特徴と診断類型、乳房管理と母乳育児支援、産褥期の正常のアセスメントと助産診断、褥婦への支援、産後の避妊法の実際、産褥期の異常と偶発疾患、ハイリスク・異常褥婦へのアセスメントと支援、健康に障害のある児を持つ褥婦・ペリネイタルロスを経験した褥婦と家族へのグリーフケア ペーパーペイシェントによる助産過程の展開の演習

新生児期の助産診断・技術学	1	30	前期	新生児期をアセスメントするための観察の視点・技術を用いて、助産診断するための思考を習得する。 低出生体重児・早産児に対し、ディベロップメンタルケアを踏まえ学習する。 事例を用いて、新生児に対する助産診断を基にケア計画を立案する。	新生児の適応生理と成長・発達、正常経過逸脱にある新生児の診断、出生後 24 時間以内の新生児のアセスメントとケア、早期新生児（生後 7 日目まで）のアセスメントとケア、新生児期のケア、乳幼児健康診査（生後 3～4 か月 ※アセスメントも実施）、新生児の主な疾患とケア、低出生体重児・早産児のケア、NICU で行われるケア、ペーパーペイシエントによる助産過程の展開の演習
分べん介助技術	1	30	前期	「分べん期の助産診断・技術学」の講義で学んだ理論や原理を活かし、安全で安楽な分べん介助技術を習得する。	分べん介助の目標と準備、正常分べん介助法の実際、胎児附属物の検査と計測、分べん介助技術演習
妊娠期の指導技術	1	30	前期	妊娠期に必要な保健指導の指導案や使用する教材を作成し、妊婦にわかりやすい指導技術の基礎を学ぶ。	妊婦の健康生活への保健指導、妊娠前期・中期・後期の保健指導案の作成、ディスカッション、ロールプレイ、妊娠期の食事指導のプレゼンテーション
産じょく期の指導技術 ※	1	30	前期	産褥期に必要な保健指導の指導案や使用する教材を作成し、演習を行うことで、褥婦にわかりやすい指導技術の基礎を学ぶ。	授乳指導の指導案作成、沐浴指導の指導案作成、産後の家族計画指導案の作成、退院指導の指導案作成、演習とリフレクション
母児救命	1	15	後期	正常な分娩経過を逸脱し急変した産婦に対応できるよう、初期対応について学ぶ。 出生直後の新生児蘇生法の理論と技術を習得し、児の救命と重篤な障害を回避する方法を学ぶ。	産科救急プロトコール、急変の感知・産婦の急変対応（産後の出血性ショック、子癇発作、肺塞栓等）、演習（産後の出血性ショック等）、新生児蘇生法（NCPR）
臨床判断演習	1	15	後期	正常からの逸脱の判断や異常を予測する臨床判断能力、緊急時に対応できる実践能力を習得する。	急速分娩時の必要な情報収集と活用方法、急速分娩時の分娩介助・間接介助演習とリフレクション、分娩経過中の事例を用いたシミュレーション演習とリフレクション
ウイメンズヘルスケア ※	1	30	前期	ライフサイクル各期における健康発達課題を理解し、対象を支援するための知識と技術を習得する。	性・不妊へのカウンセリング、妊娠期のヨガ、マタニティピクス、妊娠・分娩・産褥期の骨盤ケア（理論と実技）、母子と栄養（妊娠期・分娩期・産褥期・離乳食）、ベビーマッサージ、ライフサイクルの発達課題と支援、母子と生活支援、タバコ・アルコール・薬物依存、性の行動と機能（性の文化と発達、ジェンダー・LGBT 等）

### ◆ 地域母子保健

母子保健を取り巻く社会状況や施策を知り、女性のライフサイクル各期において、住み慣れた地域で安心・安全に生活するための地域支援や関連職種との連携について学ぶ。また、国際的視野や周産期のメンタルヘルスをふまえた支援について学ぶ。

授業科目	単位数	時間数	開講時期	ねらい	学習内容
地域母子保健Ⅰ	1	30	前期	住民の多様なニーズに対応した国・都道府県・市町村が実施する母子保健事業の法的根拠を学ぶ。 母子保健事業を保健・医療・福祉関係者と連携・協働しながら母子を支援するための基礎的知識を習得し、助産師の役割を理解する。	地域母子保健の意義・現状と動向、日本の母子保健の現状と課題、地域母子保健行政の体系、母子保健制度、妊婦健康診査、乳幼児健康診査（6か月、3歳児健診）、予防接種、地域母子保健活動の展開（母子訪問指導）、静岡市の母子保健施策と子育て支援施策、国際母子保健、在日外国人の支援、母子関係の病理と対応（児童虐待の実態と介入）、産後のメンタルヘルスとケア
地域母子保健Ⅱ	1	15	後期	静岡市における母子保健活動の実際を知り、地域における子育て世代を包括的に支援する能力を養う。	地域における助産師の活動、地域組織活動、妊婦・褥婦・新生児訪問の実際、訪問指導案作成・ロールプレイ、障害をもつ児へのサポート、子育て支援センター見学・演習・グループワーク、里山クラブ参加

### ◆ 助産管理

助産業務に関連する法律や周産期システムを理解し、病院・助産所における助産管理に必要な基本的知識や災害時の助産ケアについて学ぶ。また、周産期の医療事故とリスクマネジメントを考え、適切な対応について学ぶ。

授業科目	単位数	時間数	開講時期	ねらい	学習内容
助産管理	1	15	前期	助産業務にかかわる法律の概要を知り、助産師の法的責任と義務について、その意義を理解する。 周産期管理システム、産科病棟・産科外来・助産所の管理を学ぶ。 周産期におけるリスクマネジメントがわかる。	助産管理の基本（管理とマネジメント）、助産業務の診療報酬、関連法規と助産師の義務・責任、周産期管理システム、オープンシステム、周産期の医療事故とリスクマネジメント、病産院における助産業務管理、産科病棟の管理、院内助産院の管理、外来の助産管理、助産所における助産業務管理
災害と助産	1	30	後期	災害時における、地域での助産師の役割を理解する。 災害時における支援について母体蘇生法等の演習を通して学ぶ。	災害時の地域母子保健活動、災害の定義・種類、災害サイクルと各期の対応、過去の震災の実情、災害時の母子支援、災害時の助産師の役割（演習）



◆ 臨地実習

妊産褥婦及び新生児の助産過程を展開し、対象に合わせた助産ケアを行う基礎的な能力を養う。

授業科目	単位数	時間数	開講時期	ねらい	学習内容
助産診断・技術学実習 I ※	4	180	前期	妊娠・分娩・褥婦及び新生児期の母子とその家族に対し、既習の知識をもとに助言を受けながら助産診断を行い、一般的な助産計画を立案し安全・安楽な助産ケアができる。	分べん介助実習Ⅰ： 分娩進行状況、母子の健康状態を、助言をもとに助産診断、基本的な助産ケア 助産師外来実習： 助産師としての専門性を活かした妊婦健康診査の方法、妊婦との関わり
助産診断・技術学実習 II ※	5	225	後期	妊娠・分娩・産褥・新生児の経過をふまえ、対象に合わせた助産診断と助産ケアを行い、医療チームとして実践する力を養う。	分べん介助実習Ⅱ： 助産診断・技術学実習Ⅰで習得した知識や技術をもとに、妊娠・分娩・産褥及び新生児期の対象の状態や状況に合わせた助産診断、安全・安楽な出産に導く為の助産ケア NICU 実習： ハイリスク児の観察、NICU に入院している児へのディベロップメンタルヘルスケアの実際、母子分離をしている家族への支援
地域母子保健実習	2	90	前期	地域における母子とその家族へのケアを通して、地域母子保健活動の基本的な知識と技術を習得し、助産師の役割と責務を理解する。 母子及び家族が安心して暮らすために地域の中で子育て支援が円滑に進むためのさまざまな職種との連携について学ぶ。	助産所実習： 助産所における良好な人間関係に基づく助産ケア、管理の実際、地域母子保健の実際 保健福祉センター実習： 静岡市の保健福祉センターにおける母子保健事業の実際

静岡市立清水看護専門学校受胎調節実地指導員認定講習の授業内容

母体保護法施行規則第 17 条別表内容		本校の授業内容		
認定基準 の科目 (時間数)	認定基準の内容	助産学科授業科目	時間	授業内容
総論 (9)	受胎調節の意義と目的	助産学概論	2	家族計画の意義と目的
	母体保護と受胎調節	助産学概論	2	女性の健康と人権
	関連概念の整理	助産学概論	4	助産師と生命倫理 (生命倫理と 助産実践の倫理)
	母体保護法及び医薬品	助産学概論	2	助産師と法 母体保護法
	医療機器等の品質	産じょく期の助産診断・ 技術学	2	産後の避妊法の実際
	有効性及び安全性の確保等に関する法律の解説並びに人工妊娠中絶の現状と母体に及ぼす影響	助産学概論	1	母子保健の動向と課題 (人工妊娠中絶の現状と母体に及ぼす影響)
	小計			13
受胎調節の基礎 (5)		母子の基礎科学	4	人間の身体のしくみ・ホルモン、妊娠成立の機序、妊娠各期の母体の変化、胎児の成長と発達、臓器の成熟と器官形成
		女性の健康科学	2	生殖補助医療・不妊症
	小計			6
受胎調節の指導 (13)	模型又は人体で実施 ※実習に必要な模型は3人に1個	ウイメンズヘルスケア	2	不妊治療と看護
		産じょく期の指導技術	6	産後の家族計画指導の実際 (ロールプレイを含む)
		健康教育演習	5	思春期にある対象への性教育
	小計			13
実習 (10)		助産診断・技術学実習 I 助産診断・技術学実習 II	10	受け持ち事例、継続事例で実施
		小計		10
討論 (2)		助産学概論	2	家族計画への支援 (グループワーク)
		小計		2
考査 (1)		評価 (学科試験)	1	
		小計		1
合計 (40)	合計		45	